

带状疱疹ワクチンについてのご案内

当院では带状疱疹ワクチンの接種が可能です

带状疱疹とは

体の片側の一部にピリピリとした痛みが現れ、その部分に水ぶくれを伴う赤い発疹が出現する病気です。水ぼうそう(水痘)に罹ると治った後もそのウイルスが体の中に潜んでいて、免疫力が落ちた時に発症します。日本人成人の90%以上が带状疱疹になる可能性があり、80歳までに3人に1人が発症すると言われていています。特に50歳代から発症しやすくなります。

带状疱疹が頭部、顔面に出ると、目や耳の神経が障害され、めまい、耳鳴りなどの合併症、重症化すると視力低下や顔面神経痛など重い後遺症が残ることがあります。また带状疱疹が治った後も長期に痛みが残ることがあり、带状疱疹後神経痛(PHN)と言われていています。50歳以上で带状疱疹になった場合、約2割がこのPHNになると言われています。

带状疱疹の予防(ワクチン)

带状疱疹を予防するワクチンが2種類あり、各々長所と短所があります。当院ではシングリックスを推奨していますが、水痘ワクチン(ビケン)の接種も可能です。

これまでは水ぼうそうの予防にも使われている水痘ワクチンを使用していましたが、2020年1月に新しい带状疱疹ワクチンである「シングリックス」が発売となりました。シングリックスは2ヵ月間隔で筋肉内に2回接種しますが、2回目の接種が2ヵ月を超えた場合であっても、遅くとも1回目から6ヵ月後までに接種する必要があります。

シングリックスの带状疱疹に対する予防効果は、50歳以上の方で約97%、70歳以上の方で約90%と報告されており、水痘ワクチンよりも有効性が高いと考えられます。また、水痘ワクチンは生ワクチンのため、他のワクチンを接種する場合は、27日以上あける必要がありますが、シングリックスは不活化ワクチンのため、6日以上あければ他のワクチンを接種することができ、免疫抑制をきたす治療を受けている方などでも接種が可能です。シングリックスを注射すると、体の中で強い免疫を作ろうとする仕組みが働くため、多くの方に注射部位の痛みや腫れがあらわれますが、副反応の多くは3日以内に治まります。

シングリックスは 2 回の接種が必要で、水痘ワクチンと比較すると接種費用が高額となりますが、いずれの年齢層でも高い带状疱疹予防効果が示されており、带状疱疹後神経痛(PHN) の発症を減らす効果も期待できます。

带状疱疹に対する予防接種をご希望の際は、お気軽にお問い合わせください。

(参照)

	带状疱疹予防 (ビケン)	带状疱疹予防 (シングリックス)
ワクチンの種類	生ワクチン	不活化ワクチン
接種回数	1 回	2 回(2 ヶ月後に 2 回目) 遅くとも 6 ヶ月後までに接種
予防効果	50~60%	90%以上
持続期間	5 年程度	9 年以上
料 金	¥7,700(税込)	¥22,000(税込)
対 象 者	① 当該年度に 65 歳になる方 ② 接種時点で 60 歳以上 65 歳未満であり、 ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害がある人 (身体障害者手帳 1 級として認定) 注 1:令和7年度から令和 11 年までの 5 年間の経過措置として、 各年度に 70、75、80、85、90、95、100 歳になる方も 対象となります。 注 2:令和7年度に限り、100 歳以上の方は全員対象となります。	

室蘭太平洋病院

令和 7 年 4 月 17 日